

第2回富士見市環境審議会会議録			
日 時	平成29年10月12日(木) 開会 午前10時00分 閉会 午後12時00分		
場 所	全員協議会室	出席者数	委員定数15名中 出席者10名
出席者	委 員	澤田会長、須田副会長、木内委員、中村委員、千種委員、守山委員、関根委員、細田委員、高橋委員、戸塚委員、 ※欠席 齋藤委員、横山委員、京谷委員、羽石委員、大谷木委員	
	事 務 局	【事務局職員】 益子環境課長、谷合副課長、横田環境課主査、神谷環境課主任、 (株)環境総合研究所 寺山、藤本	
配付資料	1 次第 2 第2次富士見市環境基本計画に基づく進捗調査票について 3 湧水調査結果一覧(速報) 4 富士見市域における温室効果ガス排出量推計について		
公開・ 非公開	公開(傍聴 0名)		

内 容
<p>第2回環境審議会</p> <p>1 開会 環境課長</p> <p>2 議事 澤田会長</p> <p>【議事要旨】</p> <p>1. 第2次富士見市環境基本計画に基づく進捗調査票について</p> <p>《事務局から概略説明》</p> <p>進捗調査票については庁内各課から提出された案を庁内検討委員会で検討し、事務局でとりまとめたものを配布している。今回は、12項目あるので、1項目ずつ委員よりご意見を頂く。</p>

《審議内容》

(項目 1)

〈委員〉 “緑の保全”の中の“地域の特性に応じた緑の確保を図ります”に関して、課題・問題点では「山林所有者の事情等もあり、計画的な緑地の確保が難しい」とあり、評定では「継続」となっているが、今後の方針や目標の掲載が見当たらない。方針や目標をどのように考えているのか。

〈事務局〉 今後の方針・取り組み等は、次回の審議会にて報告させていただく。庁内検討委員会審査・コメント欄に載っている内容が、今後の一つの方向性となっている。

〈委員〉 積立金額が、H26年からH28年にかけて増加しており、特にH28年が大きく増加している。積立金額の基準はあるのか。これについて明記する必要がある。

〈事務局〉 具体的な金額の明記は難しいが、「計画の中で毎年度一定額」、「最低限の金額」、「情勢により変化」など、詳細な表記について検討する。

〈委員〉 緑地基金の使い道が「山林を買う」ことだけになっているが、もう少し幅を広げた条例改正が必要なのではないか。買えるのは山林のみなのか、湿地などは買えないのか。一步踏み込んだ内容の表現が求められるのではないか。山林保全等は、努力だけでは達成が困難であり、予算は必要になる。財政の担当はどのように関わって、どう理解しているのか。例年の傾向を見ても予算が増えることはないように感じている。

〈事務局〉 計画の施策案が出てきた段階で財政担当とも調整し、実行性の高いものにしていく。

〈委員〉 浦和所沢バイパスの敷設によって武蔵野台地の斜面林の緑のつながりが一部分断された。それについてのコメントがない。本計画がお題目に過ぎない立ち位置になってしまうことが懸念される。行政がどれだけ努力したかを表記しないと市民に理解してもらうことは難しいのではないか。大型商業施設ができたことで、その前後で周辺の生き物の状況に変化があるはずだが、それに関することが不明である。254バイパスの新河岸川の田んぼの開発計画が出ているが、本審議会とは別に計画が進んでしまっているが、こうした開発に関して本審議会での審議は行われぬのか。

〈事務局〉 開発行為が熟慮すべきこととして、計画におり込むか否かを審議会で議論され、必要なこととなれば、他の計画との整合性を図りつつ検討する。

(項目 2)

〈委員〉 “生物多様性の保全”について、“生物多様性”の方向性が富士見市にはないため、「生物多様性基本戦略を市で作る」という内容の項目が必要ではないか。個別の戦略を作るまでいなくても、この表記は必要と考える。

〈事務局〉 次回に示せるように検討する。

〈委員〉 “地産地消の推進の中の遊林農地等の有効活用”について問題点が明示されているが、遊休農地が増加傾向にある。意向調査を分析し、都市農業問題として捉え、新規就農者を募集するといった意見は庁内検討委員会で検討されたか。

生産緑地の 30 年間の営業義務期間が 2022 年の問題としてあと数年で生産緑地からはずれてしまう。国の方でも対応を促している。これらも視野に入れた検討があったか。

〈事務局〉生産緑地については、検討委員会でも意見は出ておらず、今回の計画にはなかったことなので、検討したい。

(項目 4)

〈委員〉この表の中で同じ取り組み実績の部分が多々ある。見直しに当たって集約していった方が良いのではないか。

〈事務局〉“再掲”という文言を使う方向で考えている。

〈委員〉“きれいなまちづくりの推進の中の街路樹は地域に適した樹種を植樹し、維持管理に努めます”の街路樹に関して、ふじみ野駅のインターロッキングブロックが街路樹の根っこで隆起しているため、これに対する対策も担当課で検討してほしい。

〈事務局〉表現について検討する。

(項目 5)

〈委員〉「雨水浸透施設の普及を推進する」取り組み内容に関して、ほとんどの担当が環境課になっているが、まちづくり推進課や建築指導課などが担当になった方が良いのではないか。全庁的な取り組みとして考える必要があると考える。

〈事務局〉見直しにあたって整理する。

(項目 6)

〈委員〉現行計画を策定した段階では水や自然環境が課題であった。今は国や県が地球温暖化を課題としているため、この後の見直しで優先順位はどうするのか検討いただきたい。

〈事務局〉今後検討していく。

〈委員〉“再生可能エネルギーの活用”の“雨水の有効利用”については再生可能エネルギーではなく、防災として位置付けて、担当を安心安全課などにして取り組んだほうが市民の感覚にも合うのではないか。

〈事務局〉貴重な意見として頂戴する。

〈委員〉“省エネルギーの推進”の中の“市民・事業者エコドライブ、ノーカーデーを啓発します”のノーカーデーに関連して、大型商業施設が完成したことに合わせレンタサイクルなどを設置したりしないのか。

〈事務局〉地球温暖化対策の趣旨から見直しにおいて対策として掲載することを検討する。

(項目 7)

〈委員〉“緑を増やそう”の基本方針は必要ないのではないか。壁面緑化などはほかと取り組みが重複するので、ここでは項目を削除しても良いのではないか。

〈事務局〉今後掲載について整理する。

(項目 8)

〈委員〉環境基本計画は上位の計画であるため、下位計画である“富士見市一般廃棄物処理基本計画の推進”という表記は適さない。

〈事務局〉表現を見直しでいく。

(項目 9)

〈委員〉“低燃費車・低公害車”は市役所だけで取り組むのではなく、一般市民への補助などはないのか。

〈事務局〉現段階では難しい。

〈委員〉“環境にやさしいまちづくり”というのは基本計画全体のテーマである。この項目は題目が大きすぎるので、見直しで検討したほうがいいのか。

〈事務局〉表現を見直しでいく。

〈委員〉行政の役割についての結果しかない。市民や事業者の役割についてはどうなっているのか。

〈事務局〉今後どのように進めていくか、検討・調整していきたい。

〈委員〉朝のラジオ体操に向かう多くの市民や散歩をする市民の中には、トングやビニール袋を持ってごみ拾いをしながら歩いている人が多い。こういった市民の自発的な行動を評価して計画に載せることが市民の励ましにもなり、市民全体に連鎖していくのではないのか。

〈事務局〉市民の自発的な活動の把握は難しい。今後、掲載について検討する。

〈委員〉駅前などは禁煙区域のはずだが、タバコが落ちている。対処の方法はないのか。

〈事務局〉意識付けをするため、さらに周知を図っていきたい。シルバー人材等が注意・指導することは難しいと考えている。

(まとめ)

〈委員〉担当課がいくつかあるから項目が分散してしまっているのかもしれないが、意図する項目と異なる取り組みが散見されるため、整理した方がよい。

〈事務局〉今後整理して修正する。

〈委員〉“湧水の保全と啓発”では、湧水量が減っているように感じており、水路などの水量そのものが減っているように感じる。地下水の関係なので、枯れないようにどうするのか。環境課に期待する。

〈事務局〉貴重な意見として頂戴する。

〈委員〉生き物に関して、ツバメやカエルが減っているように感じる。こういったことは具体的にどう変化しているのか。また、身近なターゲットを決めて調査することで、市民にアピールしたら良いのではないのか。「生き物を守り育てよう」の「定期的に調査します」に該当するのではないのか。環境意識を高めるために市民がやらないと意味がないため、毎年テーマを変えて市を挙げて行くと意識が高められる。

〈事務局〉ツバメの生息状況を確認することで指標等を示せば、本会議で審議していた

だき、計画掲載が検討できる。公民館などでは簡単な生き物観察会などは行っているが、検討課題としたい。

〈委員〉環境教育は行っているが、参加者が少ない。参加者増加に向けた啓発を行っていただきたい。

〈事務局〉貴重な意見として頂戴する。

(2) 湧水調査結果一覧（速報）

《事務局からの概略説明》

過年度でいうと最も古い調査が1986年と同じ年度で1987年、3度目が2002年、4回目が2011年と今年度に行っている。今回調査した結果で特筆した事項として新規確認地点がある。まずはNo.10の関口不動堂下で、隣人の方からのヒアリングによって以前は斜面林だったのが宅地造成のために、家の下を配管を通して流れているという情報をもとに今回確認した。No.18こぼと保育園は、前回湧水量が少なかったが、今回増加したため、測定している。No.19個人宅は、宅地造成で家が建っており、家の基礎の下を通して湧水を側溝に流している。No.23も家が造成されており、塩ビ管を通して側溝に流している。

〈委員〉“-”という表記についてはどう考えればいいのか。

〈事務局〉2011年と2017年については“-”は水量が少なく計測が不能であることを示している。

〈委員〉水質調査は行っているのか。

〈事務局〉自然環境調査として行っているため、生活環境項目は調査していない。

〈委員〉表ではなく図にしてほしい。

〈事務局〉子供向けだが、現在湧水マップを作っている。今後マップを更新する予定である。

〈委員〉調査年度未記載の部分についてはどう考えればいいのか。

〈事務局〉湧水地点が見つからなかった箇所である。

〈委員〉湧水を側溝に流していることについて、湧水を大切にすればいいのなら、そのまま放流しないで守るべきなのではないか。

〈事務局〉個人の費用面で困難である場合が多いため、啓発する程度に留まっている。

〈委員〉伝導率とはどのように解釈すればいいのか

〈事務局〉イオンによる電気の通り具合である。海水などは電気が通りやすいが、地下水は0.2~0.4mS/cm程度である。いわゆるミネラル分である。

〈委員〉数値を見ると飲用水として適しているように見えるのだが、大丈夫なのか。

〈事務局〉飲用水にするには飲用水のためのその他大腸菌などの調査が必要である。

(3) 富士見市域における温室効果ガス排出量推計について

《事務局からの概略説明》

平成10年の数値について見直しを行い、さらに2014年からの算定データが表1の通りとなっている。

現行計画では「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル（第

1版)」に基づき算定したが、今年マニュアルが改訂になったため、見直しを行った。経年変化の要因としては、第一次産業・第二次産業の事業所数、従業者数共に減少傾向であり、産業部門と呼び農業分野が減少傾向を示していること、第三次産業は従業者数が増加傾向となっており、業務その他部門が増加傾向を示していること、宅地開発等が進展することで、人口、自動車、廃棄物が増加傾向となっており、家庭部門及び自動車部門が増加傾向を示しているが、自動車が性能向上により燃料燃焼分野が減少傾向を示していることが考えられる。軽油については、表4の乗用車と普通貨物車の一酸化二窒素の排出係数が増えている。この原因は尿素SCRシステム搭載車の蓄積データが加わっているため、排出係数が増加していると考えられる。またマニュアルが改訂になったことで、算定内容も変わっている。この差異は、算定に使用するエネルギー消費統計における推進方法が見直され、総計値を遡って修正されたこと、国や県のエネルギー消費量富士見市に按分する際に使用する統計データが変更されたこと、算定方法及び算定項目が変更され、推計制度が向上したこと、算定に係る排出係数が増えられたことによって生じていると考えられる。改定前のマニュアルで使われていたデータの一部は調査内容から外されてしまっているため、使用することはできない。

〈委員〉大型商業施設の完成後の分は入っていないのか。

〈事務局〉大型商業施設は平成27年度開業であるため入っていない。平成27年度以降を推定した場合は、大型商業施設により業務その他部門の排出量が増えると考えられる。

〈委員〉大型商業施設はこれらの算定内容について把握しているのか。

〈事務局〉今回の算定方法は按分法を採用しているため、事業者の公表値は入っていない。

(4) その他

〈事務局〉地球温暖化についてなど、国や県が2020年や2050年までの長期の目標値をだしている。残りの計画期間で、今までの推計数を出すべきか、もしくは国や県に合わせた将来的に見込んだ数値も参考的に出すべきか意見を伺いたい。

〈委員〉県はどのように指導しているのか。

〈事務局〉国が2030年、2050年の長期目標があり、県はそれに沿った形の数値を掲出している。

〈委員〉周辺の市町村はどのように対応しているか。

〈事務局〉周辺市町村の対応は様々である。

〈委員〉詳細な数値を掲出する必要はないと考える。国や県を踏まえて目標値を出すのはいいが、長期すぎる印象を受けるため、参考程度に掲出してはどうか。国や県とのタイムラグが生じてしまい、国や県の計画・方針が見直された場合、本計画との整合が難しくなることが懸念されるため、今までと同様5年の計画で進めていくべきと考える。

〈委員〉現状においての目標値は必要だが、詳細な数値を掲出する必要はない。

〈事務局〉今後の素案作成にむけて検討する。

次回開催について

11月上旬頃を予定

委員からの要望:時間については午前9時00分から開始もしくは午後15時00分から開始にしてほしい。

以上

4. 閉会 環境課長